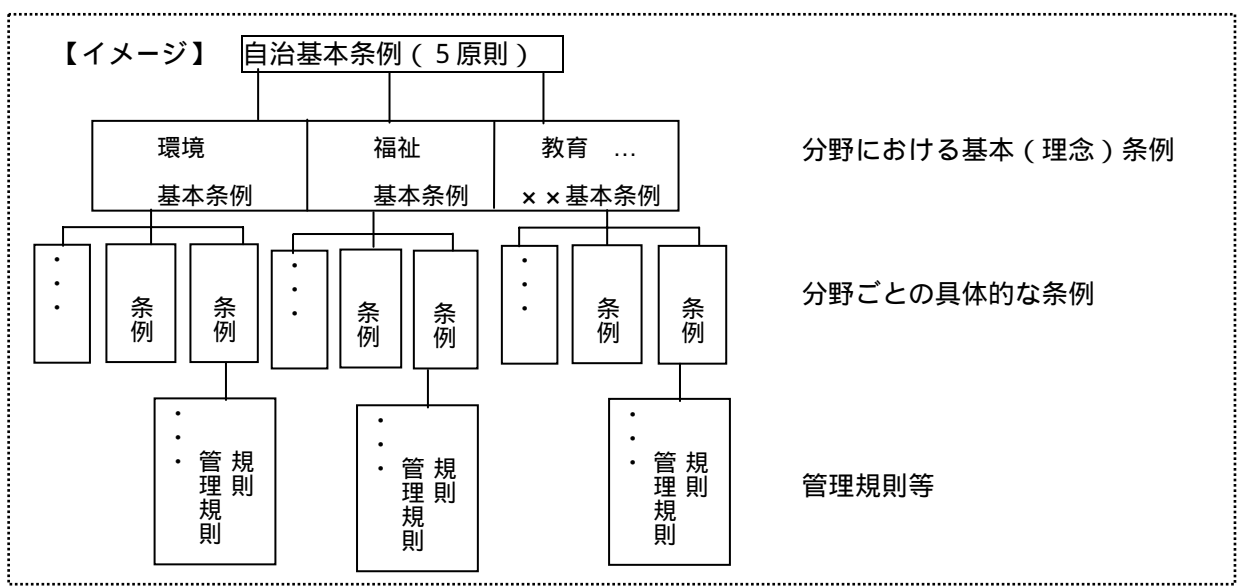


第2回米原市自治基本条例推進委員会 会議録

内容承認（富野会長）	承認											
公開・非公開の別	公開											
開催日時	平成19年10月18日（木）午後1時30分～3時30分											
場所	米原市役所山東庁舎 別館2AB会議室											
傍聴人	0名											
出席者	富野	山本	大長	高見	村岡	足立	賀治	岸根	田辺	木村	今川	北村
								-				
	（事務局）千代政策推進部長・総合政策課：津田課長、服部主査、松村											
議事	自治基本条例に基づく施策等の体系について 自治基本条例の周知啓発について（意見交換）											
<p>&lt;最初に&gt;</p> <p>（会長） 前回の会議内容を確認しながら会議を進めたほうがいいので、会議内容をまとめたものを作成して次回会議までに提供するようにお願いしたい。</p> <p>また、参加されていない市民のみなさんにも情報提供していくことも必要であるため、会議録の公開も含めてお願いしたい。</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>前回会議で再審議となった「米原市自治基本条例公開要綱」の修正について、説明を行う。</p> <p>次に、自治基本条例に基づく施策等の体系について、自治基本条例に規定されている「まちづくりの5原則」ごとに整理した既存条例・規則・規程・要綱・実施事業について説明を行う。</p>												
<p>以下、質疑応答・意見交換</p> <p>（会長） いきなり難しい説明で、自分たちとの生活とかけ離れているのでわかりにくかったと思う。推進委員会とは、いったい何をする組織なのかと。</p> <p>まずは、今の説明を解きほぐし、整理し直す必要がある。その手法として2つ方法がある。</p> <p>1つ目は、自治基本条例と既存条例をどのようにつないでいくか、委員で合意形成を図る。2つ目は、委員の皆さんの日常生活から何が必要か、何がしたいか、ということ提案してもらう。</p> <p>どちらも必要であるが、推進委員会の皆さんで合意形成した上で進めたいと考えているので、整理の仕方を提案したい。</p> <p>そこで、今川先生と私で整理の仕方を提案したいと思う。</p> <p>（会長） 自治基本条例を5原則で整理しているが、市民生活に密着した環境・福祉・教育がこの5原則とどのような関係にあるのか見えてこないのわかりづらいと思う。</p> <p>自治基本条例をもとに、他の条例を基本的な方向性を示した分野ごとの理念条例、その下の個別具体的な条例、さらにその下の管理規則というようにレベルによって整理をする。</p> <p>[イメージ図参照]</p>												



- （委員） 例えば、市民が苦情や要望を市役所へ言いたい場合、どのような方法があるのか。  
市民レベル、自治会・地縁組織レベル、NPO等団体レベル、それぞれが活動するための仕組み、道筋はどんな保障があるのかという整理が必要であると思う。
- （会長） 自治基本条例に基づいて必要な条例を整備する責任は、市にある。我々推進委員会は、条例をコントロールして、あれをやりなさい、これをやりなさいと言うことが役目ではない。市に対してあれをやりなさい、これをやりなさいと言うことは、市民の立場として条例を推進していくことになる。条例の整備作業自体は市がやることである。  
市や議会、市民がいろいろなことを出し合って作りあげていくことが基本であるから、全てをきっちり決めて入る必要はないということである。
- （委員） 個別的なものと理念的なものがごちゃごちゃしている。  
また、理念条例が少なく、NPOの立場からの条例を整理してほしい。例えば、市と協働できるような委託、補助、公共財産の使用など具体的なメニューがわかるような整理・分類があればわかりやすい。
- （委員） 資料に「市民主権による都市経営」と書かれているが、都市経営の中に市民一人ひとりがどのように入っていけるのか。市民が要求や意見を言いたくても、その仕組みがないと意見も言えない。市民主権が使えるような仕組み・制度が必要である。
- （会長） 今までは、問題があると市に意見を持っていき、市が処理をしてきたが、これからは地域の人が情報を受けて、みんながどう考えていくのかという仕組みが必要になってくる。従来の要求型のやり方ではなく、市民との協働という形に展開できる仕組みが必要であろう。  
皆さんそれぞれ問題を抱えておられるようなので、そういうところから入ることにする。

(委員) 合併するまでは行政の動きもわかったが、市となってからは庁舎も分散したため、自治会として、市民としてどう動いていいのかわからないことが多い。

困ったことがあっても、その手立てがわからず、結局諦めてしまう。農作物の被害や国道の問題、環境の問題など解決の糸口がわからず諦めてしまう。住み続けたいではなく、住みにくくなってしまふ。相談窓口など市民が諦めることのないような仕組みが欲しい。

(会長) 合併した自治体では、そのような問題が多い。

(委員) どうしてそういう問題が多いのか、それは全体参加の仕組み、その議論が少ないためだと思う。

(委員) 米原市民一人ひとり、参画の意識はあると思うが、いざ入っていこうとするための情報が少なすぎるので、何が必要なのか全く見えてこない。

自治基本条例は、会社の組織と全く同じである。スタッフは横の情報が知りたいが、組織としてそのレベルに達しておらず、情報もわかりにくい。スタッフレベルが理解できて初めて、情報が発信できるものではないか。自治基本条例も同様で、情報発信しても市民が理解できなければ、条例であって条例でない。市民が情報を収集して一人でも多く参画すれば活性化していこう。

だから、市民一人ひとりに入っていき情報が適切でないと思う。適切であれば、今言われているようなことは解消されるだろう。市民も理解できるだろうし、理解レベルから情報発信がされて、横のつながりが広がり、市民参加が促される。一定レベルの人が理解して、行動していても意味がないと思う。これを自治基本条例の中で透明性を持たせて、市民の人が気軽に入れる仕組みをつくれればいいと思う。

(会長) 大変いい話が聞けた。自治基本条例は、市民の生活で使えるように、情報を共有したり、仕組みをつくるのが大事である。日常生活の中でどのように活かしていくかが自治基本条例を活用することになる。

その他、仕事上や家庭での課題で何かあればどうぞ。

(委員) 今の米原市は、少子高齢化、若者が流出している現状がある。やはり米原駅近辺の活性化が必要だろうと考えている。駅周辺の活性化は市がやるだろうと考えているが、一市民としてできることはないかと思っている。

地域で健康づくりを進めるために、自治会で健康づくりに関するクラブを立ち上げようと考えているが、立ち上げのための助成などがあるのかどうかかわからない。

(委員) 米原市には“インデックス( )”がない。

市内では市民活動は成熟しているが、それを活用できておらず、その活動情報が本当に必要な人に伝わっていない。情報は氾濫しているが、本当に必要な人にいきわたっていない。やはり、市民と市をつなぐ中間組織が必要だと思っているので、ぜひ中間支援組織を立ち上げたい。

[インデックス( )...指数、索引、指針、指標など]

(委員) 私が住んでいるところは団地であり、自治会に老人会やサロンなどが無い。自治会でつくりたいけれど、方法や仕組み、どこに相談したらいいのかわからない。

(会長) 関西は町内会の力が強いけれど、逆に町内会が取り組まないと何もできないような風潮があるように思う。町内会だけでなく、違う角度の違う動きがあればもっと良くなるのではないだろうか。

(委員) 自分の自治会でも同じ状況だったが、まずはボランティア養成講座などに人を送り込むことから始めた。そうすることで人材を育成していった。

(会長) 行政で出前講座みたいなことはやっているのか。やっているのであればなぜ出前講座が機能していないのか。

(事務局) 出前講座は、地域や各団体などの要請に応じて実施している。出前講座が活用されていないのはおそらくPR不足であろう。また、何かやりたいという人を引き出す仕組みも必要だと思っている。一応、広報等でメニューなどを紹介している。

(委員) 要するに、どこへ情報を出せば自分にちゃんと返ってくるのかという仕組みが無いということ。資料の整理表には農業関係の条例や施策が全く抜けている。

(委員) 私はインデックス機能にこだわりたい。公民館運営で感じることは、市民が公民館にふらっと立ち寄って「今度 をするんや」と言われたら、「じゃあ、 がありますよ」と紹介ができて組み合わすことができる。人と人のつながりによって広がるがあると思う。また、地域を有機的に活用しないとつながっていかないと思う。

(会長) 人と仕組み・システムがつながっていないのだろう。人はいるし、仕組みはあるが、それがつながっていないのが問題である。今は個人情報保護法もあってつなげることが難しくなっている。

(委員) まちづくり、地域づくりにはリーダーが必要である。自治会長は、地域内の行事を任期内に終わらせることで精一杯であり、自治会長には無理なところもある。自治会長経験者などがリーダーとなって自主的なまちづくりを行い、組織を作っていかなければならないが、現実には1年交代の自治会長頼りとなっている。まちづくりのリーダーを中心とした息の長い組織が無いとまちづくりはできないと思う。

(会長) 「地域担当制度」など職員が地域へ入り、何かをしたい人の後押し、背中を押す作業があっても良いと思う。まちづくりが活発な地域は良いが、そうでない地域に頑張れだけでは無理であり、他の仕掛け、仕組みが必要である。また、まちの中にいろいろなネットワークを作り出す人は必要であり、その仕掛けがあれば情報もいきわたるだろう。

(委員) 既存条例の中に「まちづくり」という言葉があるが、自治基本条例が理念であるならば、米原市はどのようなまちをつくっていくのかという、目に見えるもの、形が資料からは見受けられない。

また、既存条例、施策をみていると、子育て支援・地域の活性化・安心安全の部分が弱いように思う。

(委員) 自治会代表の立場から意見を言わせていただく。住民の意見は、原則区長を通して市役所へ伝えるという仕組みが一応あるが、必ずしも全て仕組みどおりにはいかない。

住民要求の多様化、自治会内の少子高齢化など、自治会でのまちづくりも厳しくなっている。

(会長) 超高齢化社会で自治会という枠組では難しくなっているのは確かであり、広域化を検討する時期だと思う。これからは、地域で生きる、生活意欲が持てるような地域づくりが必要だろう。

また、高齢者だけでは限界があり、子どもと生産年齢層と高齢者を結ぶ仕組みが早急に必要で、地域の伝統を支えるために、ボランティアを広域で集めて支える仕組みなども考えていくこともありえるだろう。

地域へも枠予算的な補助金を導入し、地域での重要度に応じて自由に使えるような仕組みにしてはどうか。

(委員) 市民との信頼関係が一番である。役割分担がある中で、市役所がやるべき役割を100%をやっているのか。例えば、国からの方針で住民税が上がる場合、なぜ負担が増えるのかという仕組みや過程などの情報が住民に開示されていないから、納得ができない。住民に必要な情報が開示されていれば、自分たちでできること、できないことが判断できる。

(会長) では、大きな枠組みとして、自治基本条例ができたので、どのような条例や仕組みが必要かを考えることも大命題だが、まずは今日のように具体的に何が問題で、何が足りないかを議論しながら、整理して進めるほうが良さそうである。

次回までに、自分はこういう仕組みがあったらいい、この問題はこうすれば解決するなど、一人ずつ何か考えてきてください。

今回は、皆さんが考えてきた課題などを委員で共有しながら、どうやってまとめていくかを話し合いたいと思う。

事務局へのお願いとして、既存条例等をレベルごとに整理して内部資料として持つておくこと。

#### 次回会議日程

- ・第3回 平成20年1月17日(木)午後1時30分～ 場所未定
- ・次回以降、グループに分けてワークショップ形式で進めることも検討する。

以上